



第一章

笠井商店会への回想 帯屋 池田充義 2024.03.01

1-2 池田充義・82歳 商人体験記 令和4年8月15日、今日は笠井のお祭りです。

昭和の思い出は、お彼岸に鴨江の観音様へ行って帰りに松菱百貨店に寄るというコースが、郊外の笠井町の子供のわくわくする楽しみであった。

昭和の歴史をひもときながら、いまだ生まれていなかった笠井の町の足跡をたどると、戦前から戦後の織物産業の盛衰が解る。明治から綿織物が笠井の市で取引されて以来、織物産業の町として栄えてきた。昭和50年前後織機の解体と織物工場の廃業が起こった。

戦争中の徴兵の赤紙、金属供出、国家総動員。配給や混合飯で父母の貧しい家庭のやりくりが想像される。戦後の（すいとん）の記憶はある。腹いっぱいになった、美味しい、不味いはわからない。毎日の飯だから。痩せていたが健康な子供たちだった。防空壕に祖母と入った。念仏を唱えていた。空襲の爆撃音は知らない。

浜名郡笠井町は、秋の学校対抗運動会は目を丸くして感動した。野球の笠井で中学校は強かった。町内には草野球チームが多くあった。1月の達磨市には、福来寺境内にサーカスや見世物、露天商がやってきて、1週間位興行した。近隣の多くの人が遊びにきた。お祭りも盛んで若連や年番が忙しく祭の準備をしていた。厳粛な神輿の行列と屋台の太鼓と笛が夏の夜空に響きわたっていた。笠井町は昔からの伝統行事が引き継がれている町で、各町は個性的に団結していた。

笠井の商店は笠井往還に建ち並び3間の間口がぎっしり並んでいた。西浦通りは、置屋、旅館、役所が建ち、織屋の旦那衆の商談の席として賑わっていた。昭和25年から34年頃は、魚屋の父は運搬自転車で砂利道を笠井から浜松の市場迄魚の仕入れに毎日通っていた。行商で売っていた。テレビも無い時代で、学校へは下駄で通った。郊外の笠井町は繁栄していたが、世間の情報が少ない田舎町だった。自然の中で純朴に子供たちは育っていった。

私は昭和 34 年 4 月から 40 年 8 月まで他人の飯を食って来る（家から出て一人で会社に勤める事を言う）。笠井町から離れ 6 年半の間、運命の赤い糸に導かれて笠井町の魚屋帯屋に帰ってきた。家にはテレビや洗濯機があった。店には電気冷蔵庫に魚が陳列されていた。食料品が棚に並び、新鮮な卵を安く売って目玉商品としていた。仕出し料理は 3 品で、配達はミゼットとカブ号があった。世の中は、所得倍増計画の旗の下、日本中が活気に満ち溢れていたが 旧態以前で魚屋は遅れていると感じた。弟と魚屋帯屋の再建に取り組むことになった。

サラリーマンは、残業が当たり前で生活は豊になった。テレビ、洗濯機、冷蔵庫、マイカー、旅行、そしてマイホーム。昭和 47 年の日本列島改造論は、土地ブームに乗って、成金が続出、又倒産も続出、10 円の利益で働く商店にとって、馬鹿らしいほど、札束が飛び廻っていた。昭和 40 年から 47 年の伊弉諾（いざなぎ）景気は（神武景気と岩戸景気を上回る景気）、商店も知恵を出して、働けば結果が出た時代だった。

私は、昭和 42 年 5 月 21 日、結婚式。招待した友人の何気ない話がヒントとなり、日曜日朝 3 時起きで御前崎へ新鮮な鰹の仕入れに行く。鰹は紫色をしていた。この頃、日曜日は、商店は休日が多かったので 240 本を完売する。5 月から 8 月まで番号札を出す魚屋になった。昭和 43 年に有限会社おびやと改称。どんぶり勘定から計数管理の経営を目指す。弟が主役の仕入れ責任者、私は財部と雑務を受け持って二輪車となって働いた。

昭和 44 年、町の青年が集まって「青和会」と言う会を創った。異業種の話は面白かった。店を継いでいる者、独身の者、独立して店を始めた者、織屋の息子と多種歳々であった。昼間は仕事第一。夜の会合は、皆会合に出てきて、いろんな話をした。自分の店に対して熱いやる気が伝わってきた。目が輝いていた。

青和会の商店主の仲間が中心となって、笠井の商店に声をかけて、昭和 50 年 4 月、笠井商店会が結成された。そして 8 月 10 日福来寺境内で、青空市の企画を若手の店主に、企画を任された。境内には笠井商店主が商品を山と並べて満員の客で賑わった。この成功を機に、十日市実行委員会が組織され、毎月の企画とチラシ広告を任せられた。予算は少ないけれど、知恵を出し合って毎月の企画を実現していった。先輩たちも全面協力して支えてくれた。第 3 回からは、手づくりの舞台を作り、生演奏ののど自慢大会と商店主の夜

店市を開催。酒屋グループの生ビールで多いに盛り上がった。八百屋グループは果物の大安売りをしていた。この十日市の夜店市は笠井町の夏の名物となった。

昭和 49 年 10 月、大規模小売店舗立地法が施行された。（大型店の出店に関して地域住民の意見を反映しつつ、地方自治体が大型店と周辺地域の生活環境との調和を図るための手続きなどを定めた法律）床面積 1000 ㎡の店は商工会議所に届け出る事。住民説明会を開く事。

昭和 51 年 11 月、遠鉄ストアー笠井店開店。魚屋、肉屋、八百屋、菓子屋、一般食料品、生活用品を売っている商店は客が半分以下になった。笠井街道に人通りが消えた。53 年笠井街道東裏にグリーンエイト（ヤオハン）笠井が開店した。笠井商店会は毎月のチラシと毎月の企画を継続していった。共通のシールを売り出しの景品にして、招待旅行に使用できるようにして、シールを集めると徳する事を全面にだして活動していった。ストアーで売っていない商品を守る、ストアーでできない配達をやる。商品のプロとしてのわかりやすく説明をする対面販売の良さを前面に出して販売する店。知恵を出して売っていった。

昭和 62 年、イトーヨーカ堂駅前店の出店に竜西商店会連盟の承認の印が必要と言うことで、小出会長と会合が行われた。小出会長の決断でイトーヨーカ堂が竜西商店会連盟の特別会員として加入し年会費を納めると言うことで両者が合意した。この事により浜松駅周辺は、松菱百貨店、西武百貨店、アクトタワー、イトーヨーカ堂駅前店が揃うことになっていった。大型専門店が出店をするその場合、竜西商店会連盟の特別会員に入会して承認の印を受けて次々と出店していった。竜西商店会連盟の招待旅行は日帰りバス 8 台、一泊旅行は 400 人収容のホテルしか予約できない程に参加者が増えて大変な人気となった。特別会員が増えた事により資金も潤沢となりサービスも行き届いた。竜西の参加店は地元で商売をしながらも、地元の消防団、お祭り、PTA,自治会などの役を受けて、両立していった。この頃の商店は、どこか時間に余裕があった。仕事を段取りして夫婦で店をやりくりできた。

昭和 64 年 1 月 7 日、昭和天皇崩御。こうして昭和の時代は終わっていった。そして平成の時代へと移っていく。

平成の時代。笠井町では、住民の寄付金で立派な祭典屋台が新築されていった。平成3年笠井町制百周年記念として、笠井商店会は達磨市当日に、グリーンエイト笠井の空き家を借りて、のみの市を開催した。グリーンエイト笠井は11年で撤退していった。（噂では社員教育が脆く万引きが多く利益が出なかったとの事）

平成4年、笠井達磨市の応援団として（慈光会）を結成した。商店会員、青和会、達磨市奉賛会が協力して、300人の会員（年会費3000円）を集めて独立採算で組織した。商店会のイベントは福来寺境内を使用していたので、達磨市の為に一役何かを手伝いをしたいという事で始めた。古い組織に新しい風が流れると時代のニーズにあったものが生まれてくるものだとわかった。（甘酒の提供、納めだるまの回収、百本の幟を立て境内を賑やかにした。車庫を改造して受付場所の設置等々）

平成7年、竜西商店会連盟は、歩率2%でりゅうせい・カードに統一した。参加店は199店。毎月役員会を行ってカードの精算会を行った。竜西商店会連盟40周年記念を開催。（参加店199店、特別会員22店）。東京の烏山商店会理事長の講演（ポイントカードで大成功している商店会の話）。25周年263店。35周年251店12店減少。40周年で52店が減少。50周年136店63店減少。60周年53店83店が減少。

平成8年、リブロス笠井店が開店。浜名自動車工業（株）跡地に出店した。地元と共存共栄を図るということで、いけとも、松風屋、寺田米屋、タナベ写真、清水刺繍が出店した。消費税は5%になった。

平成10年、大店立地法の自由化が決定した。1000㎡未満の届け出不要。竜西の特別会員はこれを機会に退会していった。平成11年浜松市は平成の大合併に進んでいった。

平成13年11月14日、浜松の松菱百貨店が倒産した。（昭和12年開店。昭和24年浜松の焼野原の中から戦後復興した松菱百貨店）64年間浜松のシンボルとして繁栄したあの松菱が倒産にびっくりした。松菱友の会、納入業者、従業員にたいする引き際は誠に残念な方法だった。西武百貨店の後は、ザザシティが出店。イトウヨーカ堂は宮竹に出店。イオンは市野に出店。近距離の戦いが始まった。

平成 19 年 1 月、イトーヨーカ堂駅前店が閉店（20 年間営業）。遠鉄百貨店に負けた。その後は空洞化した建物が残っている。平成 26 年イトーヨーカ堂宮竹店閉店（14 年間営業）。イオンモール街に負けて撤退。この場所に平成 29 年コストコホールセールジャパンが出店した。従来の売り方と全く違う方法。連日超満員にびっくり。

竜西商店会連盟の浜松市の郊外の東西南北に郊外型モール街が大駐車場付きで出店。イオン志都呂店、新都田カインズホーム、イオン市野店、サンストリート浜北、ららぽーと磐田、プレ葉ウオーク、アクトシティ、ザザシティ、遠鉄百貨店、遠鉄ストアー、杏林堂、ビッグ富士が多店化して浜松中に営業している。

商店は町から消えて、セブンイレブン、ファミリーマート、ローソン、ストップ・ワンが 24 時間営業している。

平成 30 年、参加店 53 店（笠井 24 店、積志 10 店は単独で活動、都田 9 店、和田 3 店、舘山寺 2 店）で竜西商店会連盟 60 年の幕を閉めた。

笠井商店会は令和 4 年、会員 15 店で 47 年の商店会活動に幕を閉じた。3 年間のコロナ化により、日本の慣習は大きく崩れている。商人として昭和と平成の道を歩いてきて栄枯盛衰を見てきた。日本らしさ、日本のよさ、歴史は繰り返されると言う、今までと一味違う日本らしさが生まれて来るでしょう。

働いて家を守る、分相応の生活をする、貯金をして備える、助け合っ村を守る、先祖を敬う、家族を大切にす、おばあちゃんが言っていた言葉が、やっとわかった

平凡の中に幸せがあるんだね